

★ゆめある動物園プロジェクト★

「申年特別企画! Let's 猿 (えん) joy!

～チンパンジーにお年玉?をプレゼント～

日 時: 1月17日(日) 10:30~13:00

定 員: 8組(1組4名様程度)

参加費: 無料(要入園料)

要事前申込(1月3日から電話にて先着順に受付)

申年にちなんだイベントです。飼育スタッフが事前に用意した段ボールや枝などにエサをセットし、チンパンジーに与えてその反応を観察します。



★到津の森調査隊～野鳥の観察会～★

日 時: 1月24日(日) 10:00~12:00

定 員: 6組(1組4名様程度)

参加費: 無料(要入園料)

要事前申込(1月3日から電話にて先着順に受付)

冬鳥や園内で見られる野鳥について飼育スタッフのお話を聞いたあと、実際に外に出て野鳥を探し、観察します。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。  
詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所  
北九州市小倉北区上到津 4-1-8  
Tel 093-651-1895 〒803-0845  
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 1月号 2016年

発行・編集「到津の森公園」「森の仲間たち」16年1月1日発行 通巻155号

あけましておめでとうございませう

～干支「サル」の企画展～  
なりまり～さるっ!!展

『2016年はさる年!!』

そこで、サルについて楽しみながら知っていただく企画展を開催します。来園記念として写真を撮ったり、親子のふれあいコーナーとしてもご利用いただけます。



開催日: 2016年1月31日(日)まで

※期間中の毎週火曜日は休園

場 所: 到津の森公園 管理センター2階ロビー

料 金: 無料(入園料が必要)

◆記念写真コーナー

サルの生態や特徴を紹介するブースで、着ぐるみを着てサルの行動をまねてみよう!

◆パネルコーナー

サルの進化、分布などをパネルで紹介。

◆ハンズオンコーナー

サルのぬいぐるみやパズルを置いています。親子で遊びながらサルに親しもう!



# 花暦睦月

新春の園内、時折通り過ぎる寒風を受け流し歩くと、白や赤のヤブツバキが目に入ります。

学名も“Camellia Japonica”日本のツバキと名付けられた生粋の日本生まれのツバキ達です。「郷土の森」のヤブツバキはいずれもかなりの樹齢のものばかりで、いかにも野性種らしく花は開ききらず、ややうつむき気味につつましく咲いています。

日本女性を草花にたとえて「なでしこ」と呼ばれますね。木の花にたとえるなら、素朴な美しさと共にたおやかな気品のある強さも秘めた「ツバキ」こそふさわしいのではと、思ったりしながらの冬のそぞろ歩きも楽しみ。

さてすでに開花したヤブツバキと共に今年は子供ホール裏の斜面にも期待しています。「到津遊園」時代に日本庭園だった場所で、様々な園芸品種のツバキが栽培されています。周りのタブノキ等が大木となり陽を遮られて花芽が付かなかったのですが、最近大きくなり過ぎた木々が伐採され始めています。日光を取り戻したツバキ達がどんな花をつけてくれるか楽しみです。

ツバキの斜面から子供ホールの反対側、南駐車場のヒマラヤスギをご覧になったことがありますか。原産地アフガニスタン方面では50mにもなる大木で、幹は真っ直ぐに立ち上がり枝を四方に広げる姿は端正で、アロウカリア・コウヤマキと共に世界三大美樹と呼ばれているのもうなずけます。園内のヒマラヤスギはずいぶん古木で枝も刈られたり落ちたりしています。私の小さい頃は校庭や公園に植えられ、シンボルツリーとなっていました。スギの名は付いていますが、実はマツに近いもので、高い枝につく葉をよくよく見ると確かに短い針のような葉がツンツン。スギとは違います。足元に枯れ葉が厚く積り、下草を寄せ付けないヒマラヤスギ。実は森林浴で知られるフィトンチッドやテルペン等抗菌作用のある精油成分を豊富に含んでいるからなのです。同じマツ科のメタセコイヤと共に、ヒマラヤスギも人気復活の兆しがみられるとか。

園内の古くからの住人も力いっぱい頑張っって皆様の来園をお待ちしています。この生命力を受け取って下さいね。

文：花咲くおばさん

## 森のなかま・キリン

12月1日の休園日に、約2年ぶりにトーマとマリアと一緒に運動場へ出しました。マリアが「望」と「いと」を連続で妊娠・出産・育児をしていたため、マリアの体力を考慮して、これまで別々に運動場へ出すことにしていましたが、ようやく回復してきたと判断してのものです。この間、もちろんマリアの体のことを考えて、餌の変更を試みたり、葉っぱを多く与えるようにしたりしてきました。

運動場と一緒に出す際は、当初トーマがマリアを追いかけまわすことが懸念されましたが、そのような様子もなく、2頭とも落ち着いていました。順調にいけば、これからも2頭で一緒に運動場へ出し、また赤ちゃんを授かれるように飼育管理に努めていきます。

ただ、これから寒さも厳しくなりますので、マリアの体調を考慮して運動場へ出せない場合が増えるかもしれません。また、トーマもマリアと一緒にしたり1頭だけにしたりすると、不安が大きくなって落ち着かず、運動場で走り回ったりして危険なこともあるため、マリアの様子次第ではキリンの展示自体を控えることもありますので、予めご了承ください。

また暖かくなってきましたら落ち着いて2頭を見られると思いますので、ご理解いただけたらと思います。今後もトーマとマリアをよろしくお願いたします。

飼育展示係 宮崎 和宏

